
そつぎょう

三原煉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

そつぎよう

【Nコード】

N6462B

【作者名】

三原煉

【あらすじ】

『卒業』 それは一言で表せそつであらわせない。なぜなら、

沢山の『卒業』があるから。この話はその一つ。

「ねえ、卒業つてなに……………」

誰かがそんなことを聞いた。

誰に聞いたかは分からない。

ただ、その問いに答えなくてはいけないと直感的に思った。

「卒業、学校の規定の全課程を修了する事である」

「学校つて……………」

また問いで返してくる。

なんで問いで返すのかわからなかった。

だが、答えなくては殺されると思った。

……………ナゼコロサレルトオモッタノダロウ……………

2

『4004、生きているなら、応答せよ』

自分が身に着けている無線から生死確認の連絡が来た。

「……………こちら、4004。只今、B08地域から南に20歩進んだ所にいる」

『了解……………只今の生存数は約200名。』

合格数は10名となっている。1時間後に100名以上の場合、地域制限を行う。以上』

ブツツと音と共に周りが静かになった。

ただ俺の心臓はバクバクである。

なぜなら……………

『4005、生きているなら、応答せよ』

「こちら、4005。生きているよ。場所は発信機で分かるでしょ？」

『了解……』

4005と言う通し番号がつけられている俺の実弟が俺の首元にナイフを当てていたからだ。

『学校』と言う名の暗殺者訓練所の『卒業試験』と言う名の殺し合い。

ある者の『卒業』はプロの暗殺者。

ある者の『卒業』は死。

静寂が続く。

その静寂を破ったのは俺だった。

「……殺せ。どうせ殺される運命だ。お前に殺されるだけ運がいいさ」

「……」

4005は俺の首元に当てていたナイフを首元から外し、俺の胸元にある無線を壊した。

「……何がしたいんだ、お前はっ!？」

俺は4005の胸倉を掴んだ。4005は俺の手をそつと掴み、耳元で呟いた。

生きる

あれから数年後

俺は生きている。

『卒業試験』には不合格。関係者達の中では俺は死んでいる……

……)

俺は4005、いや、ガーフイによって、学校外へと運ばれて
た。

それから普通の人と同じ暮らしをしている。

これが俺にとっての『卒業』だった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6462b/>

そつぎょう

2011年10月3日20時46分発行